

〈 会 議 報 告 〉

会議の名称	平成 27 年度第2回胆振日高圏域就労移行支援事業所連絡会議
開催日・参加者	平成 28 年 2 月 26 日(金) 13:30~16:00 参加者 18 名 (事務局含む)
会 場	苫小牧市民活動センター 3F会議室II
<p>〈会議内容〉</p> <p>開会挨拶 胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて〜じセンター長 鹿野内賢士</p> <p>議題 1) 今年度の振り返り及び来年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の取り組み(成果) <ul style="list-style-type: none"> ●就労移行支援事業所が行う直 B アウトについて、実習先に行って実施したのか。 <ul style="list-style-type: none"> →所属事業所で行ったり他機関で行うこともある。期間が 3 日間ほどしかないため、実習先の担当者からの評価も含んだ総評をしている。 ●仕事と生活は一体的でどちらも大切だと思うが、事業所として余暇活動にどのように取り組んでいるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ㊤在籍者を対象に毎週土曜日実施しているが、来年度は土曜日勤務の方を考慮して日曜日実施も検討している。 ㊦平日お休みの方は地活に行っている。2 ヶ月に 1 回ほど夜に実施しているパーティーに参加されている方もいる。 ㊧3 ヶ月に 1 回ほど全体行事・飲み会などを実施し、就職した方などにも声掛けてつながりを大切にしている。 ㊨年 3 回(xmas 会・忘年会・納会)全体行事の他、今年度からサークル的に月 1 回カラオケやメンバーで話し合っけを実施している。 ㊩毎年 10 月に施設のお祭りを実施している他、施設ごとに xmas 会や 3 月にご苦労さん会なども実施している。 ㊪施設としては実施していないが、通所卒業者を対象に、2・3 ヶ月に 1 回程度飲み会等を実施している。 ㊫年 2 回(野外食・忘年会)実施している。就職した人に特化したものではなく、来年度においては計画段階である。 ●余暇支援は企業としては中々取り組めないことでもあるので、バックアップしている支援機関での取り組みが大切だと思っている。 ●利用者動向(障がいの傾向と就労動向) <ul style="list-style-type: none"> ●すて〜じの相談傾向 <ul style="list-style-type: none"> ・就職したいけれど自信がない→A 型・B 型、掃除・スーパーの品出しなどにつなぐ。 ・流れとしては A 型に向いている。札幌近郊は特に強いと感じる。移行支援事業所で企業につなぐことはとても重要である。 ●企業の開拓は足りているのか？ニーズと合っているか？ <ul style="list-style-type: none"> ・有資格で事務職を希望しても経験がないので就けない。地域がらか、実習も断られる。PC の知識はあっても、事務の理解まではできていない場合も多い。HW と連携し、市役所などで短期雇用してもらえないか掛け合っているが厳しい。また、障がい者求人も出ているが、精神障がいの理解はまだ薄いとを感じる。 ・ふれあい面接会でも身体障がい者の募集がメインだった。精神障がい者は病状が安定しないというイメージが強いのだと思う。 ・郵便局や年金事務所などで稼働している方たちについては、職場がらジョブコーチ派遣ができないため、支援者も現状を見てアドバイスできない。 <p>*今後、障がい者雇用を進めていくうえでは、官公庁にもジョブコーチが必要になる。啓蒙が必要である。</p>	

・課題(困難ケースも含む)

- ・すて～じの相談者にニーズ確認を行うなかで、病状は安定していないがお金がないので働きたいという方も多い。しかし、現状では、企業就労につないでも状態が安定せず、短期間で終了してしまい、障がい福祉サービス利用を勧めることも多い。
- ・休んでも仕事に行っても同じような状態ならば、出勤して不調時なりにできる仕事を選ぶようにしている方もいる。(企業への説明し理解してもらっている。)
- ・触法障がい者の就労支援について、刑期が終わっている場合でも犯罪のことを企業に伝えるべきか、取扱いが難しいと感じている。

議題 2) B型事業利用に関わるアセスメント状況

- 地方ではアセスメントや行政のやり方、評価方法が一本化されていない。
- 現状ではB型利用前提のアセスメントになっている。もっと早い段階で評価できれば、移行支援事業所の利用が可能という評価になっても、進路変更が可能になると思われる。

議題 3) 行政、関係機関等とのネットワーク事情

- 企業開拓ツールのひとつとして、各地区の職親会を利用し連携してもらえるとよい。

議題 4) その他

- 平成 26 年度 北海道知的障がい者福祉協会就労支援部会 実態調査報告
参考資料として情報提供する。
- すて～じにおける来年度に向けた研修会について～道が検討する研修会との連携
別紙資料参照

閉 会